


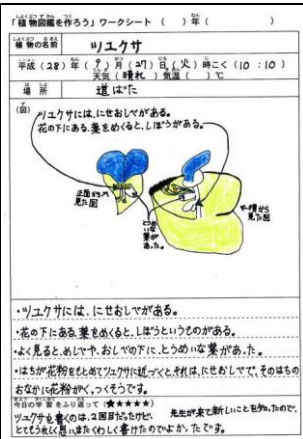
# 成果報告書 概要

2015年度助成 (助成期間：2016年1月1日～2017年12月31日)

タイトル	「自ら考え、豊かに表現する児童の育成」～森林環境学習を通して～		
所属機関	栃木県鹿沼市立上南摩小学校	役職 代表者 連絡先	校長 松浦 恵子 0289-77-3073

対象	学年と単元：	課題
○ 小学生	1・2年生活科 3～6年 総合的な学習の時間「上南摩の植物はかせになろう」	○ 教師の指導力向上を目指す教員研修、実験方法指導、教材開発 子ども達の科学的思考能力の向上を目指す授業づくり、教材開発 ものづくり(ロボット製作等)による、科学分野で活躍する人材の育成 その他
中学生		
教員		
その他		







実践の目的：	学校の周りの自然、特に植物を観察する活動を通して、課題を自分なりの方法で調べ、考え、学び合うことで考えを深め、観察したことや考えたことを豊かに表現する力を育てる。
実践の内容：	「上南摩の植物はかせになろう」(4月～11月) 各フィールドによる植物観察(月2回)と記録 データの整理 テーマ別研究 植物図鑑のホームページ更新(順次)リーフレット作成 植物図鑑作成 みどりん学習(校外の自然の中での学習 年3回)
実践の成果：	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べたり記録したりする技術の向上 ・ 学び合う学習の充実と発信する活動の充実</li> <li>季節や場所による植物の共通点や相違点に気付いたり、比較して考えたりする力の向上</li> <li>プレゼンテーションのしかた等、学校内外への発表力の向上</li> <li>自然への関心と知識の拡大 ・ 問題解決学習への関心と喜び</li> <li>「郷土愛」と「命を尊び大切にしよう」とする気持ちの高まり ・ 講師や地域の方との充実したコミュニケーション学習</li> <li>外部への発信(学習発表会、ホームページ、リーフレット、植物図鑑 等)</li> </ul>
成果として特に強調できる点：	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べたり記録したりする技術の向上</li> </ul> その集大成として、「上南摩小学校周辺の植物図鑑」の完成 自分たちで調べたり記録したりした成果を1冊にまとめ、外部へ発信できた。

# 成果報告書

2015年度助成	所属機関	栃木県鹿沼市立上南摩小学校
タイトル	「自ら考え、豊かに表現する児童の育成」～森林環境学習を通して～	

1. 実践の目的（テーマ設定の背景を含む）
2. 実践にあたっての準備（機器・材料の購入、協力機関等との打合せを含む）
3. 実践の内容
4. 実践の成果と成果の測定方法
5. 今後の展開（成果活用の視点、残された課題への対応、実践への発展性など）
6. 成果の公表や発信に関する取組み
7. 所感

## 1. 実践の目的（テーマ設定の背景を含む）

本校は、豊かな自然に恵まれた学校である。児童数は平成28年度が22名、29年度が24名で、1・2年、3・4年、5・6年生の複式の3学級である。学区にはコテングコウモリ、キバネツノトンボ、ホトケドジョウ、カントウタンボボなどの希少種が多く生息している。この豊かな自然を活用して平成22年度から「森林環境学習」を実践してきており、“学校の特色ある教育活動”の柱として、1・2年生は生活科、3～6年生は総合的な学習の時間に位置付けて取り組んできた。児童は自然への興味・関心が高く、知識も豊かである。どの学年の児童とも仲が良く、素直で元気な児童が多い。地域や保護者も大変協力的である。しかし、小規模校ということもあり、自分の考えを伝えることが苦手な児童やコミュニケーション力が不足している児童が多く、課題となっている。そこで、28年度および29年度は、今まで行ってきた森林環境学習の成果や課題を踏まえた改善工夫として、全校生で「上南摩の植物はかせになろう」というテーマを掲げ、「自ら考え、豊かに表現する児童」を育てようとした。これは学校課題の研究主題でもある。上記の実態を踏まえ、下記の4つの目指す児童像を設定した。

- ・自然に興味をもち、自然と豊かに関わることができる子
- ・課題を自分なりの方法で調べることができる子
- ・自分の言葉で語り、学び合うことで考えを深める子
- ・観察したことや考えたことを積極的に表現する子

## 2. 実践にあたっての準備（機器・材料の購入、協力機関等との打合せを含む）

- 観察場所の設定と機会の決定 低・中・高学年各フィールドによる植物観察(月2回)と記録
- データの整理専用のワークシート作成 スケッチの仕方の事前研修 スキャナー・カメラの購入
- 協力機関 鹿沼自然観察会(計画・講師・植物図鑑監修)・県立博物館(講師・植物図鑑監修)  
保護者・地域の方(協力・参加・環境整備)
- 発信・啓発方法 学習発表会 地区中学校での発表 地域の行事に展示  
植物図鑑のホームページ(順次更新) リーフレット・植物図鑑作成
- 環境整備 年間を通してピオトープ(みどりん広場・もりりん)の整備 環境コーナーの充実
- みどりん学習(年3回)の計画と実施 H28:7月・8月・10月 H29:5月・8月・12月

### 3. 実践の内容

#### 1 生活科・総合的な学習の時間「上南摩の植物はかせになろう」

4月から11月の月2回、クリーンタイムとして、低・中・高学年ごとのフィールドに分かれ植物を観察した。対象は草本とし、開花しているものを専用のワークシートにスケッチ（スケッチの仕方は事前に指導）した。写真を撮影したり必要に応じて実物を持ち帰ってスキャンしたりしてデータで保存した。また、全校生の調べたものを集めて「上南摩小花暦」を作成し、環境学習コーナーに掲示してきた。同時に高学年では、それぞれがテーマを設け、観察記録や花暦の作成、インターネット検索、講師への聞き取りなどの方法により、植物の生態や体のしくみを調べた。途中に経過発表を行い、発表し合う時間も確保した。また学習発表会や地区の中学校での発表会でも発表した。発表の際はそれぞれが調べた内容をプレゼンテーションの方法で行った。

学校のホームページでは児童のスケッチや植物写真を随時更新した。28年度はリーフレットを作成した。29年度はこれらの成果を「上南摩小学校周辺の植物図鑑」として製本した。関係者に配付する予定である。この活動では地元の自然愛好家団体「鹿沼自然観察会」や栃木県立博物館の方々に指導・助言や種名同定に協力いただいた。

花暦(一部を拡大したもの)

場所		植物の名前		4月	5月
公園	山	カサネ	スズメ	14	21
●	●	カサネ	スズメ	○	○
●	●	オニタビラコ	マツバウンテン	○	○
●	●	アズナギ	イヌナズナ	○	○
●	●	オオバコ	オオバコ	○	○
●	●	ヒメオドリコソク	タネツケバナ	○	○
●	●	カキドオシ	オニノゲシ	○	○

観察・スケッチの様子



講師からの説明とアドバイス



5・6年生のテーマ別学習の様子



6年生のテーマ(研究物)



学習発表会での発表の様子



#### 2 生活科・総合的な学習の時間 「みどりん学習」

校外に出て自然とふれあい自然を学ぶ学習である。総合的な学習の時間・生活科に年間3回を位置づけ、ローテーションさせながら卒業するまでに児童全員が同じ回数ずつ多様な体験ができるよう計画している。

##### ① 竜蓋山登山(3~6年) 毎年実施 保護者も大勢参加 H28:10月 H29:5月

上南摩のシンボル、校歌にもある竜蓋山(りゅうがいざん)に登る。学校のまわりでは見られない昆虫や植物を観察した。頂上で地域の方々や鹿沼自然観察会の方が講師になり、防災や環境の講話をいただいた。

##### ② 学校林での自然観察・生物採集(1~6年) H29:8月

学校から県道を1kmほど下った場所から、沢沿いに入ったところにある学校林で、周辺の植物や昆虫の観察を行い、種類を確認し合った。

##### ③ 南摩川での生物観察(1~6年) H28:7月

なかよし班(縦割り班)ごとに川に入り、カジカ、サワガニ、ヤゴなど清流にすむ多くの生物を採集した。確認した生物から南摩川のきれいさを感じた。安全確保のために近隣の方や保護者に協力いただいた。

##### ④ 南摩川上流にすむ生き物観察(1~6年) H28:8月

南摩川上流にある自然保護区で水資源機構の方から森林や貴重生物のはたらきについての話と保護区の生き物の様子や観察の方法について説明を聞き、付近の動植物の観察を行った。保護区内ではミヤマカラスアゲハ、タガメなどの希少種も観察できた。

##### ⑤ 野鳥観察(1~6年) H29:12月

学校の東門を出て、南摩川沿い往復約2kmをなかよし班ごとに歩き、野鳥を観察した。一人一人双眼鏡を持ち、鹿沼自然観察会の方のアドバイスを受けながら15種類の野鳥を観察することができた。

## 4. 実践の成果と成果の測定方法

### 「1. 実践の目的」での4つの目指す児童像の視点から

- ①自然に興味をもち、自然と豊かに関わることができる子
- ②課題を自分なりの方法で調べることができる子
- ③自分の言葉で語り、学び合うことで考えを深める子
- ④観察したことや考えたことを積極的に表現する子

#### 1 自然と豊かにかかわる ①の視点〈児童のワークシート・アンケートの分析〉

- ・自然に興味をもち、自然と関わることを好む児童が増え、意欲的に活動できるようになった。
- ・自然や生物に関する知識が増え、特に植物については詳しくなった。カントウタンポポやヒメオドリコソウなど種レベルで話がつながるようになってきている。名称がわからないと、図鑑等で調べる習慣が付いてきた。
- ・活動の中で、疑問に思ったことを調べる学習に意欲的に取り組む児童が多くなった。「早く調べたい」「もっと調べたい」という声がよく聞かれるようになった。
- ・活動を通して、郷土のよさを理解し郷土愛が深まった。上南摩を自慢に思っている児童が増えた。
- ・生物との関わりを通して、自然の厳しさを知るとともに、命を尊び大切にしようとする気持ちが高まった。

#### 2 調べたり記録したりする活動の充実 ②の視点〈児童のワークシートの分析・研究物の分析・発表〉

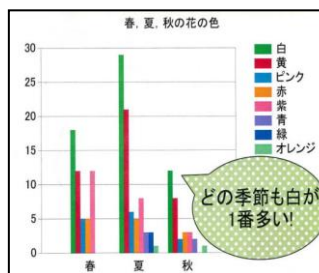
- ・観察する目が育ち、じっくりと動植物を見る児童が多くなった。学年に応じてスケッチのポイントを理解し、必要なことを描いたり記録したりできるようになっていった。
- ・季節や場所による植物の共通点や相違点に気付いたり、比較して考えたりする力が身に付いてきている。
- ・特に高学年では、それぞれの課題について探究活動を行うことができた。本やインターネットでは調べられないことがあり、自分の目で観察してきたことが大切であることを実感していた。

児童のスケッチの例（4年）

5・6年の研究成果（発表資料）の一例



「季節ごとに一番多い花の色」



「似ている花の咲く時期のちがいを」



「上南摩の有効活用ができる植物」



#### 3 学び合う学習の充実と発信する活動の充実 ③④の視点〈児童のワークシートの分析・発信する内容・方法の分析・発信〉

- ・特に高学年では、それぞれのテーマについて話し合いを進めることで、積極的に意見を言ったり友達の話をじっくり聞いたりすることができるようになってきた。
- ・ICTを活用してプレゼンテーションすることが上手になった。児童が自主的、創造的にできるようになってきた。
- ・地区内の小中学校や地域の方、鹿沼市の関係機関の方々に発信することを意識してまとめることができるようになってきた。

リーフレット

上南摩小周辺の植物図鑑

学習発表会での発表の様子



その他

地元の行事で展示

- ・教員も児童も、講師や地域の方々など、多くの方々に協力をいただき、充実した学習を実施できた。
- ・学校のホームページ、地域の行事、「上南摩の植物リーフレット」等で本校の取り組みを保護者や地域の方、学校内外に広くPRすることができた。完成した「上南摩小学校周辺の植物図鑑」も関係機関に広く配付したいと考えている。

## 5. 今後の展開（成果活用の視点、残された課題への対応、実践への発展性など）

- 2年間で得た成果を生かす。

物事をしっかり見る力、それを絵や文章で表現する力、課題を見付け様々な方法で解決していく力、学習したことをまとめる力、学び合う大切さ、プレゼンテーションのしかた等、多くの能力を身に付けた。これを理科や総合的な学習の時間だけでなくあらゆる学習の機会を活用していけるよう支援していきたい。

- 植物図鑑の活用

2年にわたる研究の成果をまとめた図鑑を、本校の植物観察に生かしていく。同時に他校や地域の方にも活用していけるようにPRしていきたい。

- 総合的な学習の改善

自然に詳しくなったが、地域の文化や歴史、交流との関連も含め、広く「地域学習」として、地域を知り、地域から学び、もっと地域に詳しく、地域が好きになる学習の展開を考えていく。

## 6. 成果の公表や発信に関する取組み

※ メディアなどに掲載、放送された場合は、ご記載ください

- 学校ホームページで「上南摩小植物図鑑」コーナーを設け、児童のスケッチや植物写真を随時更新した。
- H29. 3月 リーフレットを作成して保護者や地域の方々、地区内小中学校の児童生徒、関係機関に配付した。
- H30. 2月 成果を「上南摩小学校周辺の植物図鑑」としてまとめた。保護者や地域の方々、地区内小中学校、関係機関に配付する。この図鑑は地元の新聞「下野新聞」の取材を受け掲載される予定である。
- H28・29 地域の行事「上南摩そば祭り」に取り組みの様子や「花暦」を展示した。
- H28・29 地域の行事「南摩フェスティバル」に取り組みの様子や「花暦」、児童全員のスケッチや研究物などを展示した。

## 7. 所感

栃木県の植物研究家、関本平八（1889－1969）の言葉に「自然は一大書籍なり、書籍は一頁を読めるのみ。」というのがあります。自然自体が様々なことを教えてくれる指導者です。我々指導者は、自然とじっくり関わる体験活動を設定したり、日常的に自然と関わる場を設定したりすることで、自然の不思議さ・すばらしさに出会う楽しさや感動を味わわせることができたのではないかと思います。また、興味・関心をもって十分に自然とふれ合う場や時間が確保されることで、疑問が生まれ問題意識をもつことができます。体験の中から生まれた問題意識は、追究活動の動機付けとなり、自ら考える力の育成が期待できると思います。この2年間ですっかり「上南摩の植物はかせ」になった子供たちが、この成果を学校での学習だけでなく、生涯に生きてはたらく力となることを信じています。